

発行所
長野県保険医協会
〒380-0928 長野市若里 1-5-26
電話 026-226-0086
FAX 026-226-8698
E-mail nagano-hok@doc-net.or.jp
年間購読料 3,600円
会員の購読料は会費に含まれています



2019年(平成31年)4月25日
No.458 (毎月1回25日発行)
(1990年6月22日第三種郵便物認可)
主な記事
2019年度活動方針…2-4面、医科指摘事項③…5面、歯科指摘事項③/特養あずみの里裁判…6面、社保協総会講演録…7面、理事会便り…8面

第40回定期総会 2019年度活動方針等を決定

長野県保険医協会は3月21日(木・祝)にアルピコプラザホテル(松本市)において第40回定期総会を開催し、2018年度活動報告および2019年度活動方針、予算関連の議案など5議案を原案通り可決した。

総会では太田会員を議長に選出し、13名の物故会員に黙祷を捧げた後、議事に入った。

第1号議案では2018年度活動報告を林副会長が、第2号議案2019年度活動方針を奥山副会長が提案し、原

案通り可決。第3号から第5号の▽2017年度決算報告▽2018年度補正予算▽2019年度予算の3議案は市川副会長から一括提案し、それぞれ原案通り可決された。

決議案は憲法改正を行わないことを含め、患者の窓口負担軽減、妊産婦の医療費無料制度の創設、診療報酬の大幅な引き上げなど9項目を池上理事が提案し、原案通り決議を採択した。

可決された活動方針については2頁以降を参照。なお、決議は3月22日



決議は賛成多数で採択された

に内閣総理大臣、関係大臣に送付、地元国会議員には3月28日の保団連国会行動の際に参加役員から秘書らに手渡した。

記念講演に県内外から58名が参加

総会記念行事には元J.P.モルガン銀行為替ディーラーで政

決議

- 一、既に自助の限界を超えている患者の窓口負担割合を軽減すること
- 一、妊産婦の医療費無料制度を創設すること
- 一、初・再診料などの基礎的技術料を中心に診療報酬を大幅に引き上げること
- 一、応能負担の原則に基づき、税や保険料負担の不公平をただし、国の責任で社会保障充実の財源を確保すること
- 一、後期高齢者の窓口負担の原則2割化やかかりつけ医以外の受診に制限を加える制度を導入しないこと
- 一、消費税の税率10%への引き上げを行わないこと。将来的には消費税は廃止すること。
- 一、医療への消費税はゼロ税率として、消費税非課税の矛盾を解消すること
- 一、個人情報保護の観点から個人番号と保険証の一体化や医療情報の民間活用をしないこと
- 一、原発に依存しないエネルギー政策に転換し、原発の再稼働はせず、廃炉に向けた政策を確立すること
- 一、国連で採択された核兵器禁止条約を速やかに批准すること
- 一、国民主権、基本的人権、平和主義をないがしろにする憲法改正を行わないこと

治団体代表の大西つねき氏を招き、「経済の見方が変われば医療の見方も変わる?~人を本当に幸せにする医療を考

える~」として講演を行った。県内外から一般参加者、会員を含め58名が参加し、耳を傾けた。

ツェーリンガー博士ら、脱落乳歯の放射線量測定の意味語る

3月28日、衆議院第2会館内で「はは測定所」開設記念講演会が開かれ、県保険医協会の宮沢裕夫会長と事務局員1名が参加した。乳歯保存ネットワークが主催し、国会議員や市民、関連団体などが参加、会場は満席となった。

はは測定所は脱落乳歯に含まれるストロンチウム90の測定を行い、福島第一原発事故後の内部被曝の実態を明らかにするとともに、行政に対して広範な調査と施策などを提言することを目的として岐阜県に開設された民間の測定所。この日は乳歯保存ネットワーク共同代表の市原千博氏、スイス・パーゼル州立研究所のマルクス・ツェーリンガー博士がそれぞれ講演を行った。

市原氏は講演で、福島第一原発の事故により大気中に放出されたセシウム137は15,000テラベクレルあり、1986年のチェルノブイリ原発事故の数百倍の影響があったとした。一方で、生物濃縮と重大な内部被曝の可能性があるストロンチウム90については、

福島第一原発事故後、乳歯や食品などの測定を日本政府が系統的に行っていないと指摘。ストロンチウム90が沈着する乳歯の放射線量測定を行うことが内部被曝の実態を明らかにする上で重要であると強調した。

マルクス・ツェーリンガー博士は、核・原子力開発の歴史とヨーロッパの放射能汚染について解説した。過去の核実験や原子力発電所で起きた事故などにより放射性物質がスイスにも降下、スイス人の骨や歯にストロンチウムが取り込まれた。チェルノブイリ原発事故の後にはヨーロッパ全域が放射性降下物によって汚染されたが、チェルノブイリフォーラムにおけるIAEAの見解では「汚染地域においても癌の過剰発生リスクは見出せない」など被害が過小評価された。他方、物理学者からは、事故後のがんの発生率は有意に増えているとの異論がある。放射性物質に起因するがんリスクの増加を知ることが重要であり、乳歯保存ネットワークやはは測定所の取り組みによってそうした知見を得ることができると締めくくった。



マルクス・ツェーリンガー博士

事務局休務のお知らせ

4月27日(土)~5月6日(月)の期間休務とさせていただきます。

期間中はご不便をおかけいたしますが、何卒ご了承ください。なお、平常業務は5月7日(火)からとなります。なお期間中に診療報酬に関するご質問の方は、本紙同封の質問用紙でFAX(026-226-8698)にてご質問ください。休み明けに事務局より連絡させていただきます。

鶏声

日本国憲法が公布されて71年、その起草に纏わる事実の動かぬ証拠が発見された。それはスタンフォード大学フーヴァー研究所の地下、所謂「フーヴァー宝物庫」に眠っていた。マッカーサーは近衛案や松本案の棄却を経て日本人による起草を諦め、彼自らの所謂「マッカーサーノート」を基にラウエル(GHQ)民政局法規課長、法学博士に憲法起草を指示。◆1946年2月13日、外務省官邸にて吉田茂外務大臣、その側近の白洲次郎、松本丞治国務大臣らに対してGHQホイットニー准将、ケーディス陸軍大佐、前記のラウエル陸軍中佐、ハッシー海軍中佐からその草案が示され、表面的には穏やかに了承を求める形を取りながら了承を強要、その翻訳を事実上命じたのである。あらゆる抵抗が無効であると悟るに至る会話の一部始終が目線の動きまで記録されていた。関係者は生涯その事実の隠蔽を貫き通した。◆この一次史料を発見したフーヴァー研究所小川フェローである西鋭夫氏に心からの感謝を捧げたい。日本国憲法はGHQ民政局が書いたことが証明された。戦後の原点であった「平和憲法」よ、さようなら!なぜなら、そこに策謀と欺瞞の内在が明白となったからである。◆国家に酷い目に遭わされたという被害者意識からは何も生まれない。それを煽る動きは今も沖繩で顕著である。それからの脱却が重要である。日本国民よ、目を覚ませ!(ON)